

事務事業名	74100 地域介護予防活動支援事業	予算科目	会計 介護	款 5	項 2	目 1	事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 主な事業 <input type="checkbox"/> 国土強靱化地域計画 <input type="checkbox"/> 新市建設計画 <input type="checkbox"/> 定住自立圏構想 <input type="checkbox"/> 主要事業
基本施策	27 高齢者福祉の充実	根拠法令	介護保険法第115条の45(地域支援事業)					
施策の展開	51 介護予防の推進	戦略事業	239 地域介護予防活動支援事業					
所管課	高齢者福祉課	担当班	高齢者班					

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない	
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 18 年度～ <input type="checkbox"/> 開始年度不詳 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	平成18年度の介護保険制度改正時に地域支援事業が創設された。その内の一つである地域介護予防活動支援事業は、地区組織の育成・支援を目的としており、これまで民生委員や保健推進員など地区組織に対する介護予防教室や講演会を実施してきた。平成27年度の制度改正で、介護予防・日常生活支援総合事業がスタートし、市独自の多様なサービスが実施可能となった。地域のボランティア・介護予防のリーダーとして、高齢者の通いの場をサポートする、介護予防サポーター養成講座を、旭中央病院リハビリテーション科ほか関係機関の協力のもと開催している。	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
地域づくりに資する既存の地区組織等の育成・支援とともに、平成27年度から新規に介護予防サポーター養成講座(初級編)を1コース開催している。	介護予防サポーターの養成を開始したばかりであり、今後の活動・育成など未確定の事項がある。また教室開催にあたり、関係機関との連絡調整が必要。	27年度受講者アンケートでは「学ぶことができて良かった」「都合がつけばボランティアとして協力したい」という意見が多く聞かれた。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(29年度の決算) 単位:千円		26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(予算)
1.報償費	0	0	17	0	0	88
2.需用費	175:消耗品(パンフレット、健康教育教材等)	1	26	81	175	338
3.備品購入費	0	0	0	22	0	84
② 特定財源の内訳(29年度の決算) 単位:千円						
1.国庫支出金	44:地域支援事業交付金	1	43	103	175	510
2.都道府県支出金	22:地域支援事業交付金		5	13	22	64
3.地方債	0					
4.その他	71:地域支援事業繰入金・地域支援事業支援交付金		18	42	71	202
		1	9	22	38	116

前年度増減理由 開催件数増による消耗品の増。

従事職員数 常時 3人 最大 10人 × 1日 = 延べ 10人

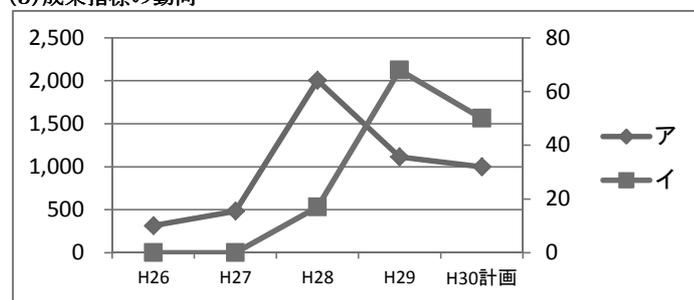
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	③ 活動指標名	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
	29年度実績(29年度に行った主な活動) サポーター養成講座(初級・中級)を1回ずつ開催。また、連絡会の開催により、サポーター育成・支援を行った。昨年に引き続き、住民主体の通いの場の立ち上げ支援を、リハビリ専門職や生活支援コーディネーターと協働により実施した。	ア 講座・研修会の開催回数 イ 介護予防サポーター養成講座(初級編)受講証授与人数	回	22	17	72	73	60
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
	対象意図 地区組織や住民 高齢者が安心して地域で暮らせるように、住民同士が支え合う地域づくりを行う。 対象意図 介護予防サポーター養成講座受講者 高齢者を対象にした地域のサロンを自主的に開催したり、市主催の教室等で活動することができる。	ア 地域活動組織の育成・支援講座参加者数(延べ人数) イ 介護予防サポーターが地域で活動した回数(延べ)	人	314	482	2,007	1,115	1,000
			回	-	0	17	68	50

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		② コスト削減優先度評価結果			
施策貢献度	大きい	①	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
	普通		(1)		
	小さい				
		②			
		③			
		④⑤			
		⑥			
		⑦⑧			
		⑨			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	<input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね順調 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 実施困難
【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)	
② 成果の状況	成果指標ア 成果指標イのタイプ 数値増=成果向上 <input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input checked="" type="checkbox"/> 低下
【コメント】 (低下の場合、その理由)	平成29年度の参加人数が減となっているが、平成28年度に地域の会社から依頼された講演会を受け持った関係で一時的に参加者が増となったためであり、平成29年度の開催自体は増加している。
③ 今年度取組事項 (30年度に取り組む主な事項について記載)	時期 内容 ①7月 ①サポーター養成講座(初級) ②10月 ②あさピー☆きりり体操全体大会 ③通年 ③通いの場の育成支援・1周年記念
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> その他()
	随時 随時の場についてはホームページなどで広がりつつあるので、依頼があったら随時説明会を実施する。今後も生活支援コーディネーターやリハビリ科、委託包括等と協働して事業を進めていく。